

平成29年度 兵庫県立こはと聴覚特別支援学校 重点目標と学校評価(自己評価および関係者評価)				
学校経営の重点【学校教育目標】				
(ア) 聴覚に障害のある幼児の全人的発達を促すための教育的支援を行う。 (イ) 幼児の発達と聴覚障害の特性に配慮しながら個性と能力の伸長を目指すとともに、一人一人のニーズに応じた教育を行う。 (ウ) 愛情に満ちた望ましい育児が行えるよう、保護者の支援を行う。 (エ) 聴覚学習を通して個に応じた聴覚の活用を促すとともに、視覚情報を効果的に取り入れてコミュニケーション活動を活発にし、 (オ) 豊かな生活体験を通して基本的な生活習慣の確立をはかり、障害に基づく困難の改善および自立と社会参加を目指す人間性 (カ) 地域におけるセンター的機能と聴覚障害児教育への理解・啓発を図るとともに、開かれた学校づくりを推進する。				
自己評価基準 A 達成している ■ B おおむね達成している ■ C あまり達成していない ■ D 達成していない ■ 未記入 ■				
学部・分掌	学校経営の重点			
	各部の実践目標	成果と課題	各部評価	校内評価
保育相談部	(ア) 聴覚に障害のある幼児の全人的発達を促すための教育的支援を行う。			
	身近な生き物に触れたり、木の実や落ち葉を拾ったり、畑の野菜を収穫したりする体験を増やし、自然や環境に対する興味・関心を育てる。	学校の敷地内で虫を捕まえて飼育したり、畑に行って野菜の収穫を楽しんだりして、自然への興味が広がった。	B	B
保育相談部	(ウ) 愛情に満ちた親子関係の中で望ましい育児が行えるよう、保護者の支援を行う。			
	今年度作成した「ふりかえりシート」を活用し、親子のコミュニケーション場面のビデオを見ながら保護者と一緒にかかわり方について考える。また、保護者が気づいたことを実践できるように支援する。	「ふりかえりシート」を活用することで、保護者が子どもへのかかわりを見直し、次の課題に気付くことができた。また、保護者の気付きを担任が具体的な支援に活かすことができた。	A	A
幼稚部	(ア) 聴覚に障害のある幼児の全人的発達を促すための教育的支援を行う。			
	花や野菜の栽培・収穫や生き物の飼育・観察、校外学習等の体験活動を通して、豊かな心とことばを育てる。	各クラスで工夫し、教室で生き物の飼育や植物の栽培、畑で野菜の栽培・収穫等を行った。子どもが自分から進んで水やりをしたり、成長を観察する姿が見られた。クラスによってやや取り組みに差があるため、年間を通して継続的かつ発展的に取り組むことが今後の課題である。校外学習は各クラスとも子どもの興味・関心に沿った内容で実施できた。	B	B
	なかよしあそびの内容を検討し、幼児が主体的にあそびに参加できるようにする。	なかよしあそびの様子をビデオに撮って記録をとりながら、毎週内容を検討し、発展させていった。集団遊びのレポートリーも増え、昼休みにもなかよし遊びで取り組んだ遊びに子どもたちが楽しむ様子が見られるようになった。	A	A
	(イ) 幼児の発達と聴覚障害の特性に配慮しながら個性と能力の伸長を目指すとともに、一人一人の発達を促すための教育的支援を行う。			
全体保育、グループ保育、個別保育といった保育形態を工夫して、子どもの発達と課題に合った保育を行う。また、担任と自立活動担当の連携を密にし、多面的な視点からの実態把握と支援を目指す。	全体保育、個別保育だけでなく、子どもの発達、課題に応じて、グループ保育を実施した。グループ保育に自立活動担当(発音、リズム)が入り、保育内容を担任とともに考える機会も設けた。また、今年度は聴能担当と定期聴力測定後の懇談会を毎回実施し、担任と密に連携をとるように努めた。	A	A	
総務部	(ア) 聴覚に障害のある幼児の全人的発達を促すための教育的支援を行う。			
	学校における儀式、行事等の立案に関しては、文化的活動、社会体験、自然体験などの体験活動を工夫して、幼児の全人的発達を促すと同時に、関係機関との連絡調整を密に行う。	今年度は手話通訳担当窓口を新設し、各市障害福祉コーディネーターとの連絡調整を密に行った。専任担当を置いたことでスムーズに運営できた。	A	A
教務部	(イ) 幼児の発達と聴覚障害の特性に配慮しながら個性と能力の伸長を目指すとともに、一人一人の発達を促すための教育的支援を行う。			
	個別の指導計画を基本に、計画一実施一評価システムを確立し、教育的支援の充実を図る。	一人一人の実態に基づき領域ごとに目標を設定することで、個に応じた指導の充実につながった。	B	B
	個別の指導計画の作成・配布が円滑に行えるよう連絡・調整をする。	年度当初に保護者への説明を行い、作成等についてはその都度担任に説明を行い、概ね計画通り実施できた。	A	A
	アセスメントに基づいた指導の充実を図る。	行動観察や諸検査等に基づいたアセスメント及び指導については引き続き充実を図っていく必要がある。	B	B
相談センター部	(カ) 地域におけるセンター的機能と聴覚障害児教育への理解・啓発を図るとともに、開かれた			
	教育相談を利用している0～2歳児の聴覚障害児とその保護者への支援の充実と、教育相談から保育相談部への円滑な移行を図るため、本校の施設設備を活用し、保育相談部の協力を得て、保育相談部在籍児と教育相談利用児の交流や遊び、情報交換などができる機会を設ける。	5月より1回(年間9回)保育相談部在籍児と教育相談利用児による『ぼっぼくらぶ』を実施した。本校入学対象の0歳児を中心に平均4～5名の参加があった。幼児たちにとっては大きな集団で互いに刺激し合いながら遊ぶことができ、保護者にとっては様々な情報交換ができた。次年度も実施したい。	A	A

研究部	(イ) 幼児の発達と聴覚障害の特性に配慮しながら個性と能力の伸長を目指すとともに、一人一人			
	(授業研究) 全教員が研究授業を行い、教員だけでなく外部講師を招へいた授業研究会も実施する。子どもの発達に合わせた保育内容の進め方や、教師の働きかけや支援のあり方などについて助言をいただき、聴覚特別支援学校教員に必要な指導力を身につけ、専門性の継承を目指す。	外部講師を招聘した授業研究を1回実施し、日々の保育に生かせるアドバイスを受けることができた。一層の指導力向上を目指すため、授業研究会の持ち方を検討したい。	B	B
研究部	(ウ) 愛情に満ちた親子関係の中で望ましい育児が行えるよう、保護者の支援を行う。			
	(保護者研修) 「子どもの発達」の研修では、聴覚障害児の発達だけでなく、幼児期の幅広い子どもの発達理解や関わりについて情報提供し、より良い親子関係が築けるように支援する。昨年度、好評であった卒業生親子の講演会を企画し、保護者が聴覚障害児の将来像を見据えた上での、親子関係や子育てについて考えることができる機会とする。	計画通り保護者研修を実施することができた。「聴覚障害児の発達」「卒業生や保護者の話」など保護者のニーズに合わせた内容および必要な情報を提供できるように来年度も保護者研修を計画したい。	A	A
生活・保健部	(ア) 聴覚に障害のある幼児の全人的発達を促すための教育的支援を行う。			
	季節や行事に配慮した給食や食に関わる体験的な活動を実施し、幼児の食に関する興味や関心を育てる。	給食では、季節や行事に配慮した献立を実施し、食への関心を高めるため、献立に関連した資料を作成した。また、保育では、季節ごとに野菜を栽培、収穫、調理体験(クッキング)等も行い、進んで食べようとする気持ちを育てることにつながった。収穫した野菜の一部は給食にも使用した。	A	A
	季節の物を題材にした掲示物を親子で見たり話をしたり、操作して遊んだりする中で、幼児が季節感を感じ取れるように、玄関と階段横の壁面構成を工夫する。	毎月、その月の季節行事や植物を題材にした折り紙と壁面等の掲示を行った。親子で壁面等を見て話をしたり遊んだりする様子が見られた。	A	A
	(オ) 豊かな生活経験を通して基本的な生活習慣の確立を図り、障害に基づく困難の改善および			
	交通安全指導や火災及び地震避難訓練を通して、事故を未然に防ぐ方法や災害時の適切な行動について、幼児に理解させる。	視覚教材等を利用して適切な行動を確認することで、子ども達も飽きずに最後まで集中して話を聞くことができていた。今年は訓練時に雨天が多く、避難場所や避難経路が本来の場所とは異なる場合が多かった。	B	B
健康について(弱視の予防、感染症の蔓延防止等)、学校医、保護者と連携し、幼児期に必要な健やかな成長・発育を促す。	屈折異常の早期発見の必要性の理解がすすみ、早期治療へとつながった。手洗いは習慣化できているが、感染症が流行したクラスもあった。	B	B	
情報部	(エ) 聴覚学習を通して個に応じた聴覚の活用を促すとともに、視覚情報を効果的に取り入れて			
	外部ボランティアによる絵本の読み聞かせで絵本に触れる機会を増やす。また、図書便りや図書の掲示板で、季節・行事に関連した絵本や新しく購入した絵本を紹介し、図書室の活用を促す。	絵本の絵が小さかったり、内容が難しかったりすることを改善するため、10月末より絵本候補を事前に複数挙げてもらい、教師が子どもの発達に合った絵本を選んだ。そして、司会が絵本に関する歌やクイズなどをし、楽しい雰囲気を作った。また、教師からも一冊読み聞かせをし、子どもが絵本に親しむ機会を増やした。図書便りや掲示板による絵本の紹介を見て、借りたい本を親子で選ぶ様子も見られた。	B	B
	(カ) 地域におけるセンター的機能と聴覚障害児教育への理解・啓発を図るとともに、開かれた			
	ホームページのトピックスを写真1枚と簡単な説明を加えるスタイルに変更し、更新回数を増やす。大きな行事だけでなく、日々の保育活動も紹介し、本校の魅力を外部に発信する。	ホームページの更新回数を増やすことはできたが、時期によって少し間隔が空いてしまうこともあった。個人情報との関係でホームページに使える写真が少ないことが課題である。	B	B
自立活動部	(イ) 一人一人のニーズに応じた教育を行う。(エ) 聴覚学習を通して個に応じた聴覚の活用を促			
	クラスの保育や担任の個別指導に取り入れられるよう、発音指導についての職員向けの研修や情報交換を積極的に行う。	今年度は職員向けの研修を4回に分けて行った。個別の指導計画作成時には各学年の教師との情報交換の時間をとった。	A	A
	定期聴力測定後の情報交換会を実施するなどして、担任との連携を密にし、子どもにとってよりよい補聴環境づくりを目指す。	定期聴力測定後の情報交換会を実施し、またそれ以外でも担任と密に連携することができた。それにより、保護者や病院との連携もスムーズに進めることができた。	A	A
学校関係者評価				
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後、自分で努力しているという気持ちを幼児期から育てていくことが必要。子どもが頑張ろうとしている時、周囲の大人が我慢して待つ姿勢が大切。 ・教師が先回りすると、子どもが教師に頼り自分で判断しなくなるので、子どもが自分で考えて遊ぶことが重要。トラブルも、子どもたちが解決しているように考えるために必要。 ・5歳児の交流は、人数・子どもの状態・環境等異なるが、保育として共通するものがあり、互いに学べることが多い。 ・自己評価に、在籍児のコミュニケーション手段や方法、言葉の発達等も示してほしい。 ・先生方の丁寧な関わりで、子どもたちは指示を聞きもらすことなく、理解し、行動できているが、子ども自身が聞き漏らさないように注意して話を聞こうとする意識や、聞き漏らすと困るという体験もあるとよい。 				